

## レポート課題の作成支援を意識した情報教育コンテンツの開発

○ 西田 孝洋（長崎大学 医歯薬学総合研究科）

【目的】 レポート課題は、授業や演習の成績を評価するために、よく用いられている。特に、薬学6年制教育においては、実務実習の評価手法として、レポート課題は重要であるが、現状では、ほとんどの学生はレポートの基本的な書き方のトレーニングを、これまでに受けていない。一方、レポート作成には、インターネットやPCの活用スキルは必須となっており、アイデアや収集データの整理、章立てや項目の構成には、WordやPowerPointを有効活用できる。そこで、情報検索・整理・活用といった情報演習を通じて、レポート作成の支援を意識した情報教育コンテンツを開発し、1年次の「情報処理入門」において実践した。

【方法】 情報教育コンテンツは、レポート作成説明用のプレゼンファイルおよび数種類の演習ファイルから構成される。プレゼンにより、情報検索の際の、剽窃の注意、データの信頼度、検索エンジン、検索方法、適切な引用方法などを解説する。さらに、自学自習を意識した演習ファイル（Word・PowerPoint）を用いて、情報の整理・活用、レポート体裁、章立て・項目の構成、プレゼンへの応用などを演習する。授業アンケートや実際のレポート課題によって、情報教育コンテンツの有用性や学生の習熟度を判定した。

【結果・考察】 レポート作成について系統的に説明することにより、レポートの意義を学生が十分に認識し、作成の流れを把握でき、剽窃の禁止や著作権保護といった情報モラルも身についたと考えられる。さらに、演習ファイルやレポート作成を通じて、WordやPowerPointなどを活用するスキルが身についたと回答した学生の割合は高かった。このような系統的な教育コンテンツは、汎用性が高く、情報教育に携わる教官が少ない現状で、有用だと思われる。